

## 「武士の子育て」に思う

校長 大谷 裕紀

先日本校の、PTA広報の、原稿依頼があり、「子育てに思う」ということで、原稿を書かせていただきました。中身はというと、「武士の子育て」(石川真理子 著)から家庭教育の大切なことや身近な大人が手本を示す、我々教員も等々。ここでPTA広報と同じことを書いてしまうと、せっかくの紙面が無駄になってしまうので、内容を少し変えて書きたいと思います。

**『江戸の日本は教育立国』** 江戸中期は戦乱のない平和な世が続いたこともあり、小さな村にも寺子屋ができたおかげで庶民でも文字が読めるようになったとあります。世の中が平和になると、武士は戦がないので生活は貧窮し、逆に庶民は豊かになっていく。その武士の、働き口が、寺子屋の師匠となるわけです。当時、武士の割合は、1割です。その特権階級の武士たちが、今度は教育をつかさどる。そして庶民に武士の教育理念が行き届く。そうです瞬く間に、「武士道」と称される日本の精神が日本全土に、あまねく浸透するというわけです。実に面白いと思います。

**『江戸時代はイクメン』** 江戸時代は父親向けの教育書がずいぶん出版されていたようです。江戸時代の男性は育児に積極的だった。あるいは、積極的の育児をするようにと奨励されていた。幕末に来日した外国人の記録には、「江戸の町を歩くと子供を抱っこした父親に出くわす」「日本では、父親が子供の面倒をよく見ている」などといった内容が見られるのだそうです。我が家は父親不在の家族旅行ばかりだったので、今更、遅いですが反省をさせられます。

本書では、林子平が書いた『父兄訓』を今の時代に慣らして読み解いていますが、『父兄訓』の中にこんなのがあります。

### 「姑息の愛」陥るな

道を学ばない父親は、その子を善悪邪正に対しても少しも心を掛けずに、ただ可愛いと思うままに愛するばかりで、十九、二十歳になっても子供扱いし、我が儘いっぱい育ててしまう。道を知らずに育つと悪に染まりやすくなるため、ついには無頼人となり、そうすると父親は子を捨ててかかってしまう。何度も言うが、人の賢愚・善悪は教えにあり、生まれつきではない。教えれば健・善となり、教えなければ愚となり悪となる。愚人を教え導くことを教化というが、「化」は、「かわる」とも「ぼける」とも読む。このことから、きちんと教えれば愚が賢に変わるといえることがわかるだろう。

子育てが終わるのはいつかなと思うと、我が家の二人の息子、娘は、すでに成人していますが、いまだに心配です。となると終わりはないのでしょうか。ただ、子育てを通して自分を律し子供とともに成長をする。これは親も教師も同じかなと思います。

7月の主な行事予定		
1	金	委員会
2	土	授業参観日(3時間、給食なし)
3	日	
4	月	振替休業日(7/2分)
5	火	
6	水	5年読み聞かせ(昼休み)
7	木	JRCの日
8	金	JRCの日 登校指導日
9	土	
10	日	
11	月	くまなびスクール つなカフェ
12	火	スクールソーシャルワーカー来校日
13	水	外国語専科教員来校日
14	木	第1回学校保健委員会
15	金	月曜日課5時間 スクールカウンセラー来校日
16	土	
17	日	
18	月	海の日
19	火	月曜日課5時間
20	水	前期前半授業終了日 全校朝会 3時間(給食なし) 一斉下校
21	木	夏季休業日(~8/30) 個人面談①
22	金	個人面談②
23	土	
24	日	
25	月	個人面談③
26	火	個人面談④
27	水	個人面談⑤
28	木	個人面談⑥
29	金	個人面談⑦
30	土	
31	日	



## 8・9月の主な行事予定

8月13日	(土)	~8/16(火)日直を置かない日
19日	(金)	全校登校日(給食なし・3時間)
20日	(土)	PTA奉仕作業
31日	(水)	全校朝会、3時間給食なし、一斉下校
9月1日	(木)	給食開始(5時間) 避難訓練
2日	(金)	校内絵画制作会
5日	(月)	くまなびスクール つなカフェ
8日	(木)	JRCの日、家庭教育研修会
9日	(金)	JRCの日、登校指導日、
12日	(月)	くまなびスクール つなカフェ
21日	(水)	文化芸術子供育成総合事業(ダンス)
22日	(木)	教育相談日
26日	(月)	くまなびスクール つなカフェ
27日	(火)	PTA全体委員会

※ 日直を置かない日は、職員が学校におりません。



## 運動と共にある生活を

体育主任



運動は、生活していくなかで欠かせないものだと考えています。健康面はもちろん、心の状態にも良い影響を与えてくれます。生活習慣病の予防や筋力、からだ機能の維持にも必要です。

体育の授業の目的は、生涯運動と親しんでいけるよう資質・能力を育むことです。できないことができるようになった時に得られる心情の変化、自分の体を目いっぱい動かすことで得られる気持ち良さ、友達と協力して得られる喜びや感動、など運動から学べることはたくさんあります。

「できることはやる、できないことはやらない」ではなく、まずは自分なりの目標を持ち「できないことができた」「さらにできるようになった」を味わえる環境をつくっていきます。

最近では、中学校や高校を卒業して運動から離れてしまった人、または運動をあまりやっってこなかった人でも、大人になり運動の必要性を感じ始めている人が多いようです。

玉井小学校で運動好きの子供たちがたくさん生まれるように、精いっぱい環境をつくりまします。これからもご理解ご協力をよろしくお願ひします。